

第 3 7 3 回白石市議会定例会 一般質問通告書

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
1	3番 水落孝子	<p>1 食の安全安心の確立について</p> <p>あいつぐ食品の偽装事件と、輸入食品による食中毒事件などから、「食の安全安心の確立」が求められています。そこで市が直接関わる学校給食を中心に伺います。輸入食品の検査は1割だけという現状もあり、食の安全安心は保障されていると言えない状況があります。</p> <p>(1) 学校・幼稚園・保育園の給食での冷凍食品・加工食品使用の割合について、輸入品・国産品それぞれに分けてお示し下さい。</p> <p>(2) チェック方法マニュアルについて伺う。</p> <p>平成20年度の重要施策にも、(14)学校給食の充実と食育の推進とかかげられているので、必要性の認識は一致できると思うが、</p> <p>(3) 地元産食材使用を更に拡げるために、問題点はあるのか？あるとすればどのようなことか？また、その対応策をどう考えているのか。</p> <p>(4) 食育の現状と、さらなる充実にむけて、どう取り組もうとしているのか。</p> <p>「食の安全安心の確立」のためには、農業の重視と生産者との共同・協力が必要と考えるが、</p> <p>(5) やる気を失わせてしまった国の農政について所見を伺う。</p> <p>(6) 認定農家、集落だけでなく、農業を続けたい人、新規就農希望者など、だれもが「いきがいを持てる農業への自治体としての支援策」について所見を伺う。</p>	市 教 育 長
2	5番 沼倉啓介	<p>1 4年間の総括と今後の展開について</p> <p>6月12日開催の本会議において、市長は10月執行の市長選に向けた姿勢を明確にされた。 第1期目の当選の栄に浴され4年間『共汗』『共学』『共生』を掲げ進まれた。 それらの4年間の総括はどのようなものであったのか。また、今後目指そうとしている『心豊かなしろいし』とはどのような実感ができうるものなのか。</p> <p>2 刈田病院への本市としての関わりについて</p> <p>公立刈田総合病院と白石市の関わり方について構成市町が費用負担し事業運営をしている刈田病院も存立基盤さえ維持することが困難さを示している。 それらに関して当市の議員もフォローしようと懸命に関わりを持つべく努力している。当院の在り方次第では大きく本市に甚大な影響が予想され、庁内あげて今後の見通し等も含め積極的な取り組みが必要と思われる。 これらに対する構成市の首長としての考えを示して欲しい。</p>	市 長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
3	11番 保科 惣一郎	<p>1 家庭の教育力について</p> <p>秋葉原の通り魔事件では死者7名、負傷者10名の惨事となりました。アーケード街をトラックが暴走し7人が死傷した仙台の事件が思い出されます。「世の中が嫌になった。誰でもよかった。」が凶行の理由であり、そこには地域や家庭、友人の絆が消え、孤立感や絶望感しか見えません。</p> <p>東京都の「青少年に関する世論調査」においては自分の感情をコントロール出来ずにすぐに切れてしまう青少年が6割以上になり、その原因としては親子の結びつきが弱く、家庭のしつけや教育力の低下を感じている人は8割に上っているとのこと。</p> <p>子育ての基本は社会全体で考えるときが来ていると思うのですが、市長は家庭教育の現状をどのように考えているのか。</p> <p>また、学校において力を入れて欲しいものとして“徳育教育”が最も多かったとのことであり、規範意識を養うには大切な教育だと思いますが、学校教育の中でどう取り組むつもりなのか。</p> <p>子供たちは安心出来る母港を求めています。その母港たる学校や家庭が揺れて崩れているのではないかと。～子どもと過ごす“今”を大切に～、家庭を顧みる日・「家庭の日」の創設はいかがでしょうか。</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p> <p>教育長</p>
4	2番 菅野 恭子	<p>1 放課後児童クラブ実施場所の増設について</p> <p>(1) 放課後児童クラブは、現在第一、第二児童館のみで行われているが、年々登録利用数が増加にあり飽和状態になりつつあると見受けられるが、児童の安全、健全な運営等、諸見地から、早急と同クラブ実施場所の増設を検討すべきと考えるが、市長の見解を伺います。</p> <p>(2) 福岡小学校から第一児童館登録利用数は、現在15名おり、同小学校への入学確率の高い北保育園の同小学校区内の卒園見込み数は、平成20年度13名、同21年度12名、同22年度13名であり、同小学校敷地内において同クラブ実施の必要性は十分にあると考える。そこで、平成21年4月位を目標に同小学校の空き教室を利用し、同クラブ実施をスタートさせる検討をすべきと考えるが、市長の見解を伺います。</p> <p>(3) 大平小学校区内の児童10名位が第二児童館で実施されている同クラブを利用するために地域から離れて白石第二小学校に入学していると聞いている。この事は、大平小学校内に同クラブが設置されていれば避けられる事であり、同小学校内においての実施へ向け検討すべきと考えるが、市長の見解を伺います。</p> <p>2 インフルエンザ予防ワクチン接種への助成について</p> <p>(1) 子育て支援の見地から、抵抗力の弱い小学校就学前の乳幼児及び受験を控える中学3年生を対象に標記の助成を行ってはどうかと考えるが、市長の見解を伺います。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長</p>

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
5	7番 山田裕一	<p>1 自主財源の確保について</p> <p>本市のパナー広告が多くの反響を呼び、好評を得ているが、さらなる自主財源の確保策を考えているのか伺いたい。</p> <p>例えば、窓口封筒や納税通知送付用封筒、図書貸出票、庁舎エレベーター、玄関マット等の広告収入や、我々議員や市職員を対象とした、本庁駐車場の駐車料金を新たな自主財源の確保の手段にしてはいかがか。</p> <p>2 中心市街地の活性化策について</p> <p>中心市街地の活性化対策として、空き店舗をどのように活用していくかが1つのポイントとして考えるが行政として何らかの策を考えているのか伺いたい。</p> <p>例えば、市が一つ空き店舗などを買い上げ、特に高齢者の憩いの場所として改築し、お茶飲み話が自由にできたり、囲碁・将棋など自由に指せるような憩いの場所として無料開放すれば、活気ある中心市街地の一助になるのではないかと思うがいかがか。</p> <p>また、空き店舗対策に他の自治体で取り組んでいるチャレンジショップ事業補助金制度のような制度を導入し、新たに商店街で商売をする方のバックアップができれば、中心市街地の活性化対策の一助となると思うがいかがか。</p> <p>3 E M（有用微生物群）を使ったまちづくりや学校教育について</p> <p>E M（有用微生物群）は、自然界から採取し抽出、培養した微生物で、現在では農畜水産だけでなく水質浄化をはじめとする環境浄化や、医療、建築、教育など様々な分野に広がっている。平成20年5月末現在、全国1,788の市町村のうち約470（約32%）の市町村で導入し、E Mによるまちづくり（ゴミ減量・水路・河川の浄化）や市内小中学校でのプール清掃やトイレ清掃、また環境問題に対する児童・生徒の意識を啓発することにもつながることから学校教育に関しても適しているものと考えているが、市長・教育長の所見を伺いたい。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p> <p>市長 教育長</p>

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
6	10番 大野 栄光	<p>1 選挙カー運動の時間短縮と投票時間の繰り上げについて</p> <p>議員（候補者）が選挙カーで一生懸命政策を訴えている事がややもすると市民の皆様には夕方の家族タイムに不快感を与えていたかも知れません。そこで選挙カーの街宣活動を午後5時までとし市民の皆様にご理解をいただきたいと思えます。</p> <p>また、投票時間におきましては午後8時まででは長すぎるとの声もありました。午後6時までが妥当ではないかとの私の考えではありますが、市長にご所見をお伺いいたします。</p> <p>2 公用車の小型化について 更新時の低炭素カーについて</p> <p>今、地球温暖化防止に向けてCO<sub>2</sub>の排出量が大変問題になっております。</p> <p>また、燃料の高騰、止まる所を知らずに値上げされております。行政改革が叫ばれている昨今、公用車の小型化についてご所見をお伺いいたします。</p> <p>また、小型化した場合の燃料費の違いをご試算いただきたいと思えます。</p> <p>また、更新時に二酸化炭素の排出量が少ない車を導入するお考えはあるかお伺いいたします。</p>	市長  市長
7	9番 佐久間 儀郎	<p>1 広報・広聴事業について</p> <p>行政主体、首長は、諸施策の浸透状況及び推進上の問題点の所在などを常時把握、収集して真に市民の信頼と協力の上にたった市政の実現を図ることが求められます。そこで、今年度の「市長のわいわいトーク」等における行政サイドの評価はどのようなものか、市民の反応、ご提言などを今後どう市政運営に活かしていくものか、そして今後広報・広聴事業の充実をどう図ろうとしているのかをお伺いします。</p> <p>2 自治基本条例制定の検討について</p> <p>本市では、第4次白石市総合計画の目標「市民と行政のパートナーシップによるくらし日本一のまちづくり」、市政の基本理念「共汗」「共学」「共生」から「市民総参画の共創」をキーワードに掲げ、ともすれば、要求依存型の市民意識を参加型に意識改革し、主体的なまちづくりを実現しようとしている。</p> <p>市民参加型の市政、市民と『協働』のまちづくりを推進するためには、行政側から訴えていく手法では足りず、また行政のアイデアだけでは立ち行かなくなると思われ、住民を巻き込んだ政策決定、自己決定の仕組み、道筋を定めるべきもと考える。行政活動への住民参加手続きを規定する、例えば「住民参加条例」さらには住民と行政の役割分担などを定める「自治基本条例」の制定が検討されてしかるべきと思料しますが、市長の見解を伺います。</p>	市長  市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
7	9番 佐久間 儀郎	<p>3 成年後見制度利用支援事業についての『市民後見人の養成』</p> <p>本市の「成年後見制度利用支援事業」は昨年4月から要綱により実施されている。同事業は判断能力が不十分になった際の事後的な措置（法定後見制度）であり、事前的な措置（任意後見制度）は対象外である。同事業の主旨を事前的な任意後見制度にも及ぼさせるような施策が求められると考える。</p> <p>最近両制度に共通の「後見人」について、親族が後見人のケースで横領など不正な事件が頻発して社会問題化している。</p> <p>そこで、信頼に足りる市民に後見役を担ってもらうべく、法的、福祉的な研修を前提とした「市民後見人の養成」事業に取り組む行政例が増えている。信頼できる第三者後見人「市民後見人」を紹介できるシステムを福祉サービスの一環として構築し、高齢者等の市民を支援し、公的に援助すべきものと考えますが、市長の見解を伺います。</p>	市長
8	1番 沼倉 昭仁	<p>1 財政健全化法と一般会計負担の在り方</p> <p>これまで財政再建団体にならざるをえなくなる基準は、一般会計などの普通会計の「決算上の赤字」を示す「実質赤字比率」が一定の割合を超えることとされていた。しかし、実際には夕張市のように普通会計というよりは、むしろ、公営事業会計などの特別会計などに財政悪化の要因があるケースが多い。そのため、普通会計を中心とした実質赤字比率に加えて、病院、下水道などの公営事業会計を含めた特別会計を合わせて分析しないと実態はつかめない。そこで導入されたのが「連結実質赤字比率」であり、いわば民間の企業会計の連結決算である。</p> <p>白石市の現状は果たしてどうなのだろうか。厳しい病院経営の現状では、病院事業を含めた連結実質赤字比率にどれくらいの影響があるのか、当年度末における連結実質赤字比率の見込み数値はどれくらいになると予想しているのかお聞かせください。</p> <p>このように連結型財政指標を導入すると、様々な会計の中に隠れていた財政赤字が明らかになると言われるが、しかし、公立病院の役割は、地域に必要な医療のうち、採算性等の面から民間医療機関による提供が困難な医療を提供することである。そのため、当該病院の果たすべき役割を再認識しながら、特に厳しい状況にある病院などの公営企業会計については、将来の見通し、すなわち、どこまで負担をして、どこまで一般会計による特別繰り入れがなされるのかといった一般会計負担の考え方を明らかにすること、つまり、財政健全化法の指標を睨んだ財政健全化の改革プラン策定の時期にきていると思われるが、白石市の健全化に向けて具体的にどのような考え方で取り組むのか、市長の所見をお聞かせ願います。</p>	市長

順位	質問者	質問事項・要旨	答弁を求める者
9	4番 吉田貞子	<p>1 介護保険制度改革の影響と実態把握と検証</p> <p>2006年4月の総給付抑制を目的とした介護保険制度改革は、利用者にも介護従事者にも様々なマイナスの影響を及ぼしている。当市への影響と実態調査、検証の内容について伺う。</p> <p>(1) ホテルコスト、食事コスト等利用者負担増加による利用者への影響と実態把握について。  (2) 報酬減額・介護予防による収入減の実態と、サービス事業者の経営・雇用条件・人材確保への影響と実態把握について。  (3) 介護認定が軽く出るとの声が聞かれるが、当市の特徴的な傾向について。  (4) 介護予防サービスの月定額制は、サービスの制限となっていないか、実態について。  (5) 地域包括支援センターの実態と効果について。  (6) 小規模多機能型地域密着サービスの課題と検証。  (7) 特別養護老人ホームの職員配置と待機者の実態。入所施設へのニーズの把握。  (8) 介護保険制度を補完する各種高齢者支援サービスの実態と検証、ニーズの把握について。  (9) 第4期介護保険事業計画策定にむけた取り組み。</p> <p>2 障害者自立支援法について</p> <p>2006年10月に本格実施された障害者自立支援法は激変緩和措置をはじめとする特別対策、今年7月からは「緊急措置」を予定しており、法自体のあり方の問題点が指摘されるところです。</p> <p>(1) 同法の「応益負担」に対する所見を伺う。  (2) 障がい程度区分の判定変更の傾向。  (3) 居宅介護サービスの実態について。  (4) 障がい者の地域生活向上にとって移動支援は重要なサービスと考えるが所見を伺う。  移動支援の実態と、利用者のニーズについて。  (5) 65歳以上75歳未満の障がいのある方は、後期高齢者医療制度を選択できることになったが、選択についての見解。</p>	市長
10	12番 四竈英夫	<p>1 河川敷地を活用したパークゴルフ場の建設について</p> <p>近年パークゴルフの愛好者が増えています。青空の下、白球を打って芝生のコースを歩くことは健康的にも精神的にも大変良いことです。近隣には角田の阿武隈川河川敷にコースがあり、好評を博しています。</p> <p>白石川にも利用可能な河川敷がありますので、それを活用したパークゴルフ場を建設し特に人気のある中高年層の健康増進と生きがいの創出を図るお考えがないかお尋ねします。</p>	市長